

第4考査講評①

2年生の第3考査あたりから平均点の低い科目が目立ちます。どの科目でも毎回の考査で同じくらいの平均点になるように問題を作成しているはずですが、平均点が下がってきているということは、「先生たちの想定する学力と皆さんの実際の学力に差ができてきている」ということではないでしょうか？平均点が低いときいて「テストが難しかったからや」「みんなできてへんから安心」こんな風に思っていないですか？2, 3科目は実際にそのときのテストの難易度がたまたま高かったかもしれません。しかし、平均点が低かった科目はすべてたまたま難易度が高かったのでしょうか？平均点が低いことで安心しないでください！平均点は鳳高校73期生わずか300人程度の平均点です。**皆さんのライバルは全国の55万人**(センター試験を受けるだいたいの人数)です！

第5考査では鳳高校73期生みんなの学力が先生たちの想定するレベルを超えて、各科目で高い平均点になることを期待しています！

【英Ⅱ】

今回の平均点は63.8点でした。点数は前回より少し上がっているので一見、良いように見えますが、今回もっとも得点率が良くなかったのはリスニングです。君たちが大学受験で受けるときのリスニング・リーディングの配分は1:1です。英Ⅱのテストでは16点分しか出題しませんでした。これを大学受験時の配分に換算するとリスニングの重要性がわかると思います。冬休みにこれから入りますが、少しでも「英語の耳」を作る努力を日々していきましょう。この「英語の耳」は付け焼刃ではどうにもなりません。1年後の自分のために1日10分からで良いので、英語に触れる時間を作っていきましょう。文法や長文、単語もちろん大切ですが、リスニングにもしっかり目を向けて充実した冬休みを過ごして下さい。

【長文】

第4考査の学年平均は56点でした。応用問題はなく、すべて授業や自学で学んだところからの出題でした。読解の授業の中での、文章をしっかりと読み込み、なぜこの言葉が使われているのか、なぜこの時制なのかなど、疑問を持ちながら文章と向き合うという読み方には、速読とは違った到達点があります。

文法項目でいうと、今回は分詞を中心に出題しました。ほとんどの人は理解しているようですが、現在分詞か過去分詞かで迷う人はもう一度総合英語beを使って復習してください。

【数Ⅱ】

正直に言って、このような平均点になったのはとてもショックです。早急に対策を講じないと手遅れになりますよ。『赤信号、みんなで渡ればみんなアウト』です。まず、今回のテスト範囲が広いことは最初から分かっていたことですよね。そこへの対応、準備が足りていなかった人が多かったように感じます。また、問題の難易度はごく標準的なレベルでした。なぜ間違えたのか、どういった間違いが多かったのかしっかり復習をしましょう。と、毎回言っていますが、本当に本気でやっていますか？分かっているはずなのに点数が取れない人の傾向を、野球に例えてみました。身に覚えがないのでしょうか？

【4STEPだけやって、授業ノートや教科書の見直しをしない】

→練習試合だけまじめにやって、試合後の練習をサボっているのと同じことです

【授業はだいたいわかっているから、4STEPは真剣にやらない】

→キャッチボールや素振りだけやって試合に出るのと同じことです

【テスト直前ギリギリまでいっぱいいっぱいテストをむかえる】

→前日に500球投げて試合で先発するのと同じことです

最後に、「もう数学は必要ないから」とか「どうせやってもできないから」とか思っている人へ……

あなたが希望する進路の入試科目に数学がないからといって、あなたの人生に必要なことになることはありません。そしてそれ以上に、最後までやりきらずにあきらめることは、あなたの人生にとって損失でしかありません。



【現文】

第4考査の講評というよりも、現代文の学習姿勢や方法について書きたいと思います。皆さんは一人で机に向かって勉強できていますか？たとえば現代文の学習では、副読本の『錬成現代文』に一人で取り組んでいますか。ここのキモは「一人で」ですよ。

問題を自分で解いてみる。

→ **解答を見ながら採点・添削する。**

→ **解説を熟読して何が解答のポイントなのかを得心する。**

→ **可能ならば、間違った問題を再度解いてみる。**

ここまで実践できている人はきっと少数でしょうが、本当の実力はこれくらいのことを継続して初めて身につくものです。塾で教えてもらおうと、その時は分かったつもりでも長続きしません（楽しんで手に入れたものは離れていくのも早い）。学習効果は「一人で」復習してこそ現れます。いい加減に〇つけをして提出している（と思われる）問題集を見るたびに、もったいないという思いを強くしています。どうせなら効果が長続きする学習を心がけましょう。

【英表Ⅱ】

第4考査の学年平均は53.8点でした。問12はPower Stageからの出題でしたが、全体的に出来はよくありませんでした。これらの文法問題は日常会話で普通に使う表現であったり、平均的な文章を読むのに必要な文法でした。小テストの範囲でもあったので、毎回の小テスト準備を怠らないようにしてください。

問3以降は教科書からの出題で、すでに授業で取り組んだ練習問題や文章からの問題です。よくできた人の中にも綴りミスで点数を失ったり、同じ単語を重ねて書いたりと慎重さを欠く答案もありました。英作文の問題も基本的な構文をしっかり身につけているとできるものばかりのはずです。

文法は、過度にこだわるあまり、何も書けない、何も話せないでは困りますが、どの文も基本的な文法の上にてできています。よって学校で学ぶ文法はしっかり身につけるべく頑張って取り組んでいただきたいです。

【地基】

平均点は57～8点でした。60点くらいを想定していたので、想定よりやや低かったです。あと、80点を超える高得点層が少なかったと思います。正答率10%未満の問題は3点分だけでしたので、もう少し高得点層が多くいて欲しかったです。今回は知識を直接問うだけでなく、きちんと理解できているのかを問う問題を増やしました。

【1点問題】特に正答率が低かったのは地質時代A～Eと出来事①～⑫を結びつける問題です。地質時代区分で区切らず大量絶滅で区切っていたため少し難しかったかもしれませんが、「古生代は2×3やで～」「中世代は1+2やね」と何度も言っていたと思います。受験でも頻出の問題ですので、しっかりと復習しておいてください。

【2点問題】地層や地質構造の順序はかなり難しい問題を出題しましたが、よくできていました。一方で、古生物のイラストの問題は、考査直前に対策ポイントとして挙げていたにも関わらず正答率が大変低かったです。特に正答率最低（8%）の「デスマスチルスの歯」は「サンゴと間違える人多いけど“哺乳類の歯”やで！」と注意しましたが、見事に「サンゴ」と解答する人が続出しました。

【3点問題】文章を読んでいると「勾配」「河口」の意味をわかっていない人が非常に多かったですが、かなり甘く採点しました。「勾配」は「水平距離（横）」と「鉛直距離（縦）」の比で決まります。問題文に「標高は同じとして良い」とあったので、「鉛直距離（縦）」は日本の河川もドイツの河川も等しいと考えられます。つまり、図から「水平距離（横）」の違いを読み取って表現できているかがポイントです。文系理科では入試において記述問題はありますが、理科での論理的で簡潔な表現力は他教科の記述問題にも生きてきます。表現力もしっかり鍛えましょう！

【物基3】

平均点は47～8点でした。今回、飛躍的に点数が上がった人が数名います。（よくがんばった！）グッと点数があがっていても「授業中にやった問題ばかりや」「もう少し勉強したらもっと取れた」という声を今回はよく聞きました。それは**皆さんが成長している証拠**です！気になったのは1点問題の正答率がかなり低かったです。1点問題は物理の力や計算力というよりも、しっかりと基本事項を理解しているのかを問う問題です。物理でも知識として知っておかなければいけないことはあります。しっかりと覚えて、理解しておいてください。

今回成長が見られた人も油断せず、さらなる努力を期待します！